

港区史編さんだより

～ 区民の皆さんと歩み、歴史を語り継ぐ～

発行：港区総務部総務課区史編さん担当

〒105-8511 港区芝公園 1-5-25 / TEL 03-3578-2049 / <http://www.city.minato.tokyo.jp/>



今号の表紙

昭和 35 年頃の港区役所庁舎。場所は現在と同じです。昭和 22 年にこの地に本庁を移し、昭和 62 年に新庁舎が建設されるまで多くの区民の皆様に利用されました。



港区史編さん委員長からのメッセージ



皆さんこんにちは。港区史編さん委員会委員長の井奥成彦です。港区が約 40 年の時を経て、区史編さんをする事となり、お声掛けいただきました。

私が勤めている慶應義塾大学の恩師や諸先輩方が、過去に刊行された港区史や新修港区史の編さんに携わっており、港区になんらかの貢献ができればという思いから諸先輩の後を継ぐような気持ちでこの大役を引き受けました。区史の編さん作業は、長期にわたるものとなり、区民の皆様にとどのような過程で作られているかをお伝えしながら、区民の皆様に身近で愛着の持てる区史にしていきます。

全力で頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

■港区史編さん委員会委員長、井奥成彦氏プロフィール

慶應義塾大学 文学部 教授、慶應義塾福澤研究センター 所長

【学歴】慶應義塾大学文学部史学科、明治大学大学院文学研究科史学専攻

【経歴】流通経済大学教授、京都産業大学教授 2006 年から現職

港区史の基本方針

港区は、平成 29 年 3 月 15 日に区政 70 周年を迎えるのを機に、「新修港区史（昭和 54 年 5 月）」の刊行から 37 年が経過した港区史を、以下の基本方針に基づき新たに編さんします。

- (1) 区の先史から現代までの歴史的・文化的特性に配慮するとともに、区政 70 年のあゆみも体系的に記録し、後世に語り継いでいける区史とします。
- (2) 学術的研究を基に、新たな区史の編さんを行います。
- (3) 図や写真を多く用い、分かりやすく、読みやすい、身近に感じられる区史とします。
- (4) 区民との協働により編さんを行うことで、区民が愛着の持てる区史とします。
- (5) I C T（情報通信技術）を活用することで、国内外に広く港区の魅力を発信します。
- (6) 収集した資料及び今後新たな研究・検証等に基づく資料は継続的に収集を行い、管理・保管し、定期的に検証します。

■港区史刊行・公開スケジュール■

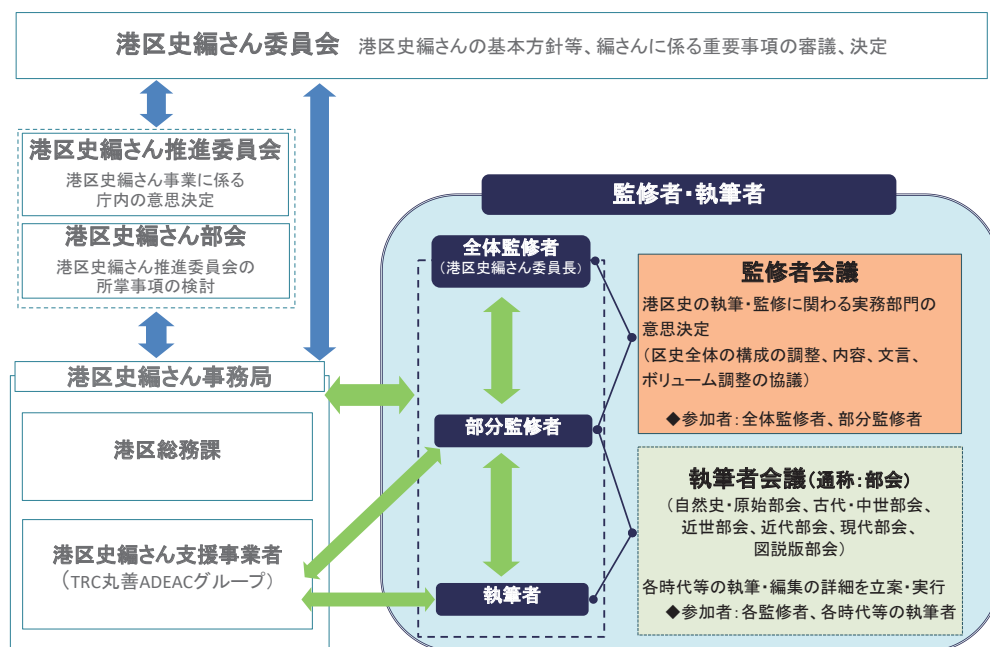
		平成30年度 (2018年度)	平成31年度 (2019年度)	平成32年度 (2020年度)	平成33年度 (2021年度)	平成34年度 (2022年度)
通史編	原始・古代・中世	→				
	近世	→				
	近代	→				
	現代	→				
資料編		→				
自然編		→				
図説版		→				

※全て刊本・WEB版同時公開予定

港区史の編さん体制

区民の皆様身近で愛着を持てる区史にするため、学識経験者をはじめ、区民の皆様に参画いただき、港区史編さん委員会を設け、区史編さんに係る基本方針や重要事項を決定しています。また、港区域の原始に始まり現代に至るまでを学術的研究を基に執筆するため、70名を超す学識経験者が執筆に当たっています（時代ごとに集まる会議体も別にあります）。

■港区史編さん体制図



■港区史編さん委員会 委員名簿

氏名	委員の分野	団体・役職等
井奥 成彦 (委員長)	学識経験者	慶應義塾大学 文学部 教授
田中 秀司 (副委員長)	区職員	港区副区長
岩淵 令治	学識経験者	学習院女子大学 国際文化交流学部 教授
都倉 武之	学識経験者	慶應義塾福澤研究センター 准教授
唐木 富士子	区関係団体推薦者	港区青少年委員会 副会長
小林 元子	区関係団体推薦者	人権擁護委員 地区代表委員
小林 靖彦	区関係団体推薦者	港区商店街連合会 白金商店会 会長
野尻 三重子	区関係団体推薦者	港区民生委員・児童委員協議会 会長
渡邊 仁久	区関係団体推薦者	港区観光協会 会長
小柳津 明	区職員	港区副区長
青木 康平	区職員	港区教育長
有賀 謙二	区職員	港区麻布地区総合支所長
星川 邦昭	区職員	港区芝浦港南地区総合支所長
北本 治	区職員	港区総務部長

■監修者名簿

氏名	担当分野	所属・役職等
井奥 成彦	全体監修	慶應義塾大学 文学部 教授
高山 優	自然史・原始 図説版	元港区教育委員会事務局 学芸員
漆原 徹	古代・中世	武蔵野大学 文学部 教授
岩淵 令治	近世	学習院女子大学 国際文化交流学部 教授
寺崎 修	近代	慶應義塾大学 名誉教授
都倉 武之	近代	慶應義塾福澤研究センター准教授
大山 耕輔	現代	慶應義塾大学 法学部 教授
石上 泰州	現代	平成国際大学 法学部 教授

Zoom Up 編さん過程のヒトコマ



◀ 平成 30 年 7 月 24 日開催 近代部会の様子

近代部会では、明治・大正時代、昭和時代の戦前を中心として、執筆者が集まり毎月開催しています。近代部会では扱うテーマが多岐にわたるため、部会開催ごとにテーマを決めて調査した内容を報告し議論しています。

※この他に 8 月 28 日、9 月 25 日、10 月 25 日、11 月 22 日に開催されました。

平成 30 年 7 月 25 日開催 近世部会の様子 ▶

近世部会では、江戸時代を中心に、概ね 2 か月に 1 回程度執筆者が顔を揃え、担当分野の調査結果や執筆内容について報告しています。

※この他に 9 月 17 日に開催されました。



◀ 平成 30 年 8 月 2 日開催 芝大神宮調査

区史に係る貴重なお話を伺いに、芝大神宮へ訪問しました。9 月に開催される芝大神宮例大祭（だらだら祭り）をはじめ、江戸時代にまつわる話を伺いました。また、江戸時代から伝わる「千木筥（ちぎばこ）」もを見せていただきました。「千木筥」は良縁のお守りとして有名です。

協力：芝大神宮

→ 江戸時代の
「千木筥」



← 芝大神宮

平成 30 年 8 月 16 日開催 港区史編さん委員会 ▶

港区史の編さんには、区史編さんに係る重要事項を決めるため、港区史編さん委員会を開催しています。

今回は、区史や巻の名称等を審議いただき承いただきました。

区史の名称は、区民の皆さんが愛着を持ち身近に感じられるよう、シンプルに“港区史”としました。この“港区史”とは別に、写真や図を多く使い、港区の歴史をわかりやすくまとめた本の制作を行い、そのタイトルを“図説 港区の歴史”としました。



◀ 平成 30 年 10 月 11 日開催 監修者会議の様子

港区史の編さんのため、執筆・監修に関わる実務部隊の意思決定機関として、監修者会議を設けています。

今回の監修者会議では、資料編について、スケジュールや各時代の頁の割り付け等を協議したほか、各時代の進捗状況等について確認を行いました。

平成 30 年 10 月 27 日開催 光明寺調査（拓本） ▶

光明寺へ、文書や板碑の調査のため訪問しました。光明寺境内納骨堂前にある板碑は、鎌倉時代中期から安土桃山時代にかけて作成された墓前に立てる板状の石造卒塔婆で、板石塔婆ともいわれます。今回の調査では、この板碑の拓本を取らせていただきました。

協力：光明寺



「デジタル版 港区のあゆみ」で編さん過程を随時公開中！



現在制作中の「港区史」はデジタルでも公開を予定しており、編さん過程を随時アップしています。
写真や地図、データ、動画など、さまざまなコンテンツをアップしていく予定です。
また過去に刊行した「新修港区史」、旧「港区史」「赤坂区史」「麻布区史」「芝区史」なども公開しています。
港区の歴史をデジタルで巡りましょう！

デジタル版 港区のあゆみ URL

<https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Usr/1310305100/index.html>

「港区のあゆみ」で検索！！



「新修港区史」も販売中！



区政 30 周年記念事業として刊行した「新修港区史」（昭和 54 年発行）を販売しています。
詳しくは下記へ！

<http://www.city.minato.tokyo.jp/kushihensantan/kushinohanbai.html>

- | | |
|-------------|-------------------|
| 第 1 編 | 第 2 編（現代） |
| 第 1 章 自然の歴史 | 第 1 章 市街の変貌と生活の諸相 |
| 第 2 章 先史時代 | 第 2 章 人口と社会 |
| 第 3 章 古代 | 第 3 章 議会と行政 |
| 第 4 章 中世 | 第 4 章 税財政と予算 |
| 第 5 章 近世 | 第 5 章 環境と安全 |
| 第 6 章 近代 | 第 6 章 産業と流通 |
| | 第 7 章 教育・文化 |
| | 第 8 章 労働と福祉 |
| | 第 9 章 町域の歴史 |



みなと街歩き

「港区史」近世編（江戸時代）の執筆者が、近世部会の巡検の一端として、実際に港区を歩いてみました。文献資料だけではなく、実際に港区を歩き、当時の人々が歩いた道を辿ることで、当時の人々が感じた街の広さや特徴を知ることができます。ここでは、いくつかの歴史的遺物を紹介しましょう。



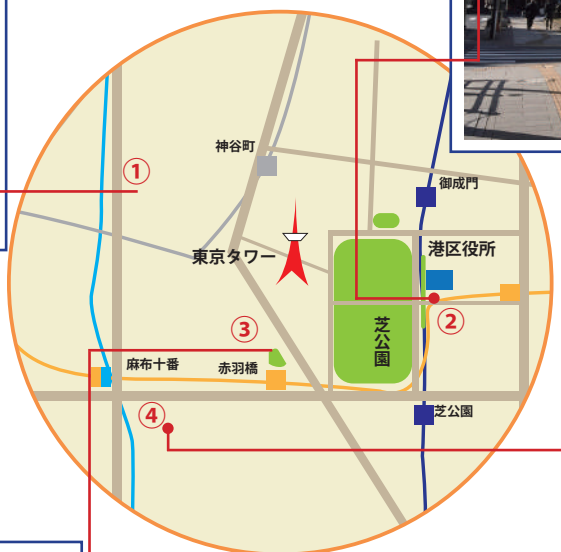
① 落合坂

←台地と低地から構成される港区域は、東京 23 区の中で最も起伏に富んだ地と言われ、区内のいたるところに坂が見られます。落合坂もそのひとつ。赤坂方面から往来する人々が、この坂で行き合うことから落合坂と名づけられたと言われています。その由来から、昔から多くの人がこの坂を利用していたことが想像できます。



② 廣度院の練堀

↑「芝公園」と呼ばれる一帯にはかつて三縁山増上寺の広大な寺社地が広がっていました。その面影を残すのが、増上寺三門の向かいに位置する廣度院の表門と練堀。土と瓦を交互に組み上げた練堀は、江戸時代の景観を今に伝えています。

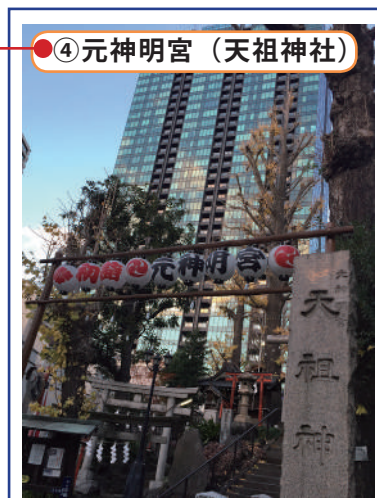


↓港区立飯倉公園がある場所には、今から 160 年ほど前の安政 6 年（1859 年）にこの地に外国使臣の宿所、交渉場として赤羽接遇所が開設され、万延元年 7 月（1860 年）にはプロシア使節の公館となり同所で日普通商条約締結交渉が行われました。



③ 飯倉公園

→都営大江戸線赤羽橋駅の近くには、かつて久留米藩有馬家上屋敷がありました。古地図をみると、その有馬家屋敷に食い込むように「元神明」という神社が記されています。有馬家屋敷は残っていませんが、この「元神明」は「元神明 天祖神社」として今も同じ場所に佇んでいます。『芝区史』には、寛弘 2 年（1005）、一条天皇の時代の創建であり、江戸幕府開府ののちは神明宮として厚い信仰を集めたことが記されています。



④ 元神明宮（天祖神社）

編集後記

『新修港区史』の発行から約 40 年が過ぎ、港区では港区政 70 周年記念事業として、学術的研究を基に全編を書き起こし、新たな区史の編さんに取り組んでいます。区民の皆様、長期にわたる編さん作業の過程を発信することで「区史編さん事業」について、興味・関心をもっていただくため、今後港区史編さんだよりを定期的に発行します。次号もぜひご覧ください。